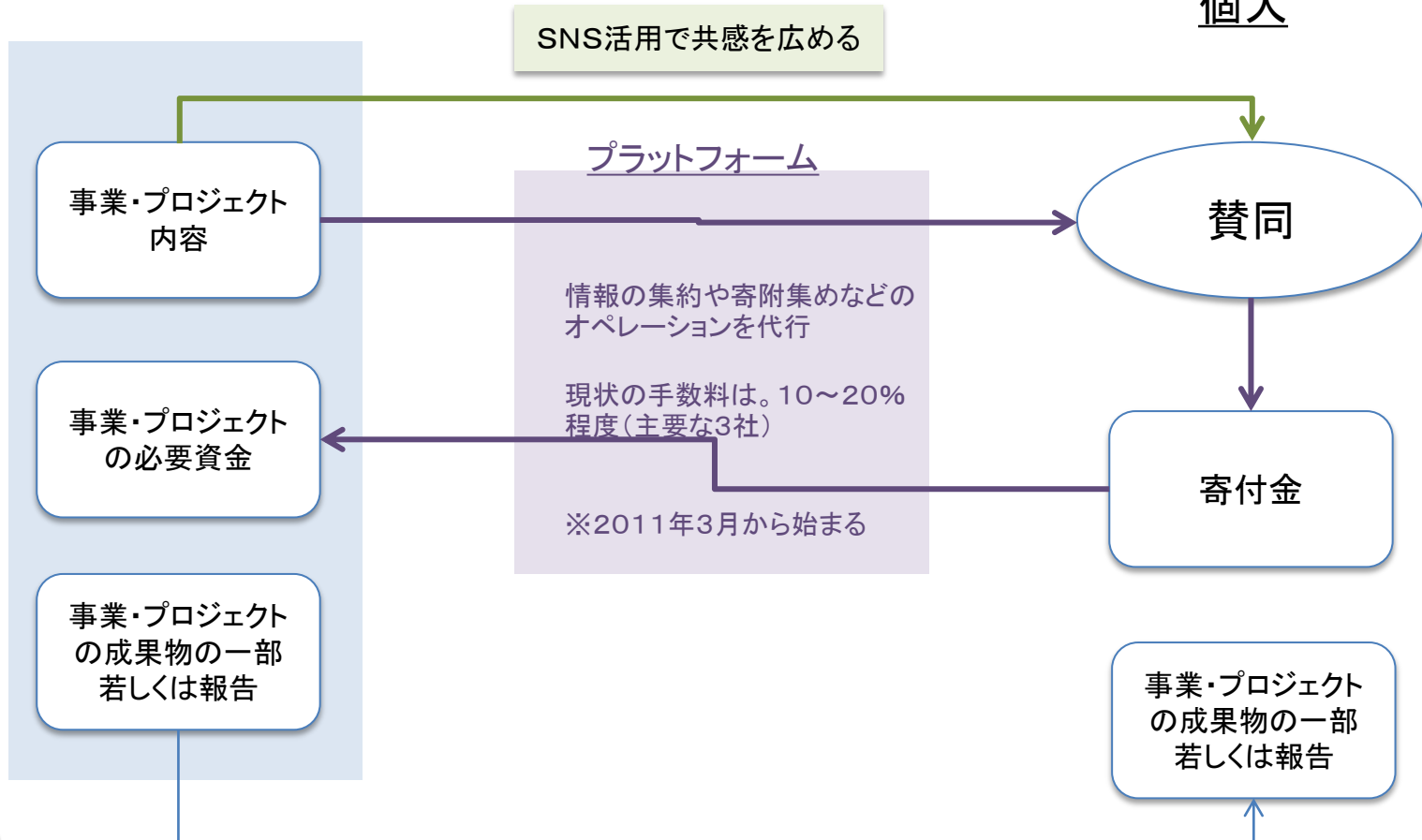


# クラウドファンディングの概要

現状では、数十万～数百万の事業・プロジェクトの立上げ資金を、インターネットを使って個人の賛同者から一人当たり数万円程度を集めるファイナンス方法を指す

## 事業・プロジェクト

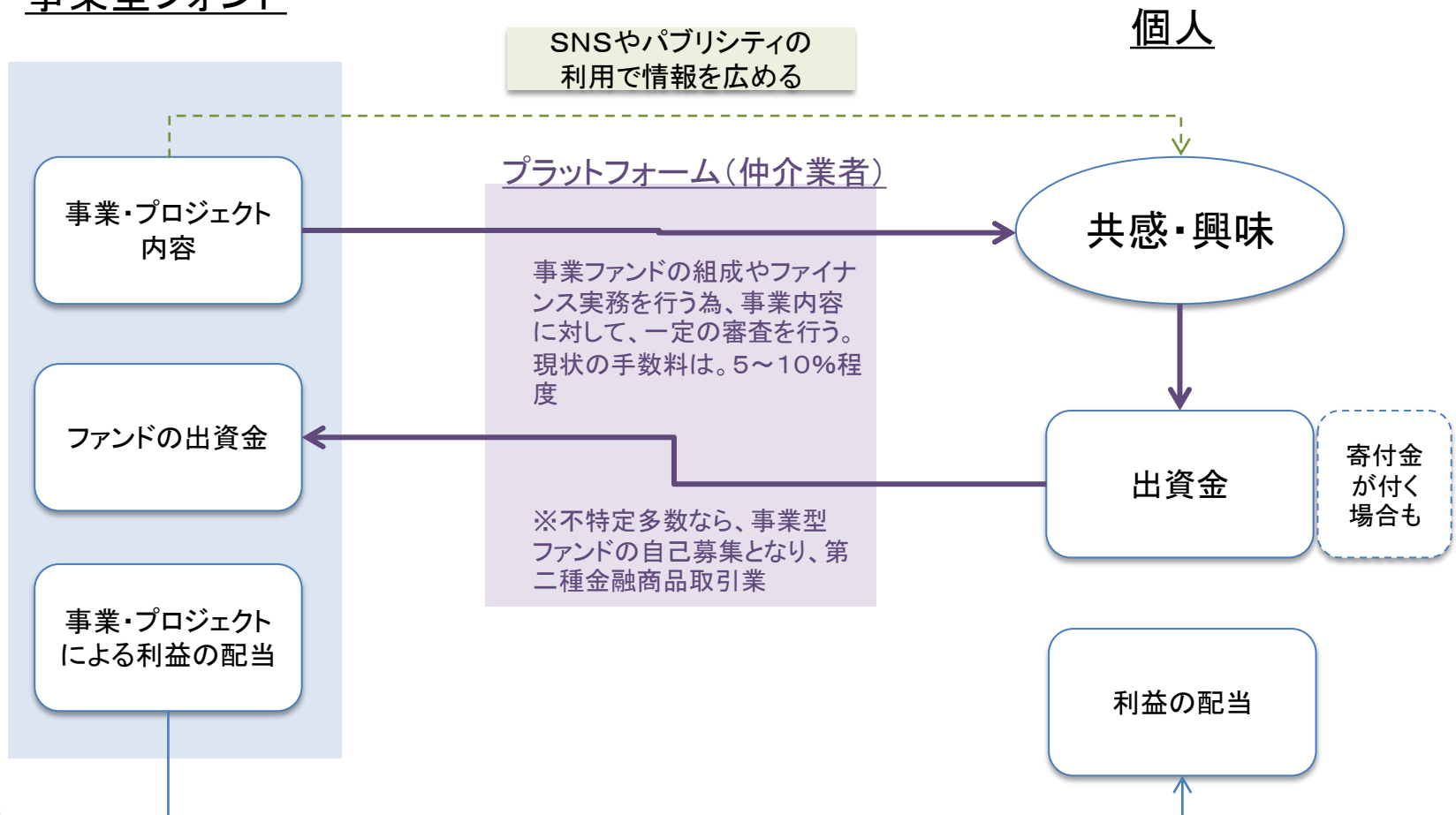
## 個人



# マイクロファイナンスの概要

中小企業の特定の事業や大震災からの復興資金集めなど、数百万から数千万円の事業型ファンドの出資金集めがインターネットを使って行われている。

## 事業型ファンド

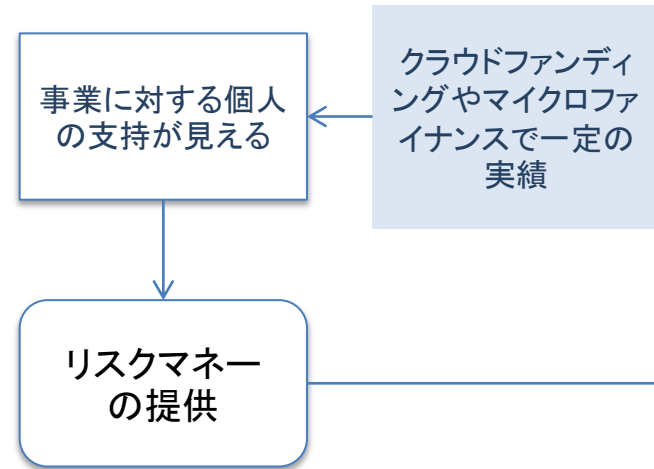


# ベンチャー企業のファイナンスへの応用の可能性

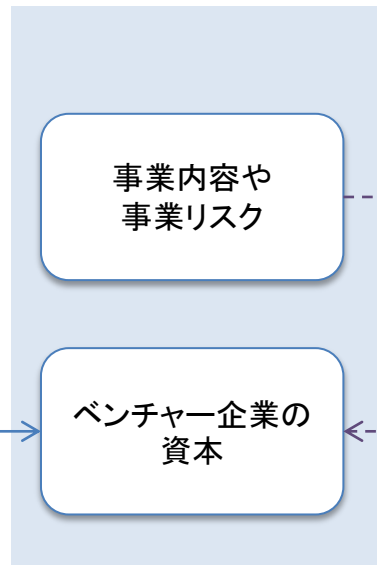
ベンチャー企業がリスクマネーを集める方法として、クラウドファンディングやマイクロファイナンスで一定の個人の支持を得た事業に対し、ベンチャーキャピタルが出資していく方法も考えられるが、一方、個人のリスクマネーを広く集める方法も検討されるべき

## 機関投資家

(ベンチャキャピタルなど)



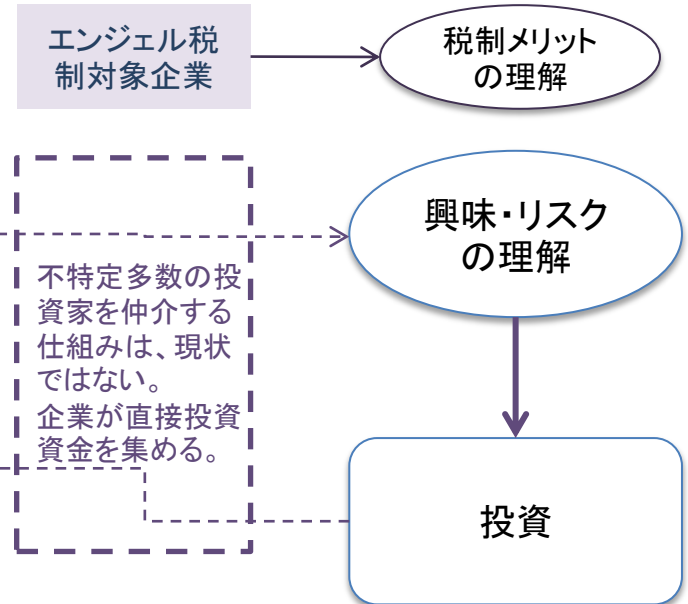
## ベンチャー企業



不特定多数から少額の資金を集めるには、  
・1億円以下なら、募集する有価証券内容を記載した有価証券通知書  
・1000万円以下なら、その通知書も不要

しかし、現状ではこれらのファイナンスを仲介する業者はいない

## 個人投資家



エンジェル税制対象企業

不特定多数の投資家を仲介する仕組みは、現状ではない。  
企業が直接投資資金を集める。

現状のルールでは証券会社は取り扱いえない。しかし、4月に米国で成立したJOBS Actのクラウドファンディング条項では、少額の事業資金をSECの登録なしに集めることが可能となっている。但し、所得や資産に関する制限はある。  
(仲介方法などは今後決定)

